

脊椎・脊髄グループ

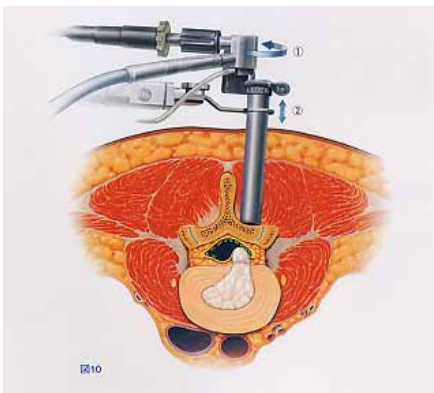
スタンダードな手術から低侵襲な内視鏡下手術、
そしてナビゲーションを用いた先端医療まで

腰痛は人類の 80% が経験するといわれる国民的疾患とされています。その腰痛の原因は様々ですが、脊椎（せぼね）に由来するものが大多数を占めます。そして変形性脊椎症は変形性膝関節症と同様、加齢に伴う退行性疾患であり、テレビの司会者で有名なみのもんたさんで話題となった腰部脊柱管狭窄症も含まれています。また日本も高齢社会を迎え、高齢者は誰もが腰が曲がることなく、痛みのない生活を望んでいます。われわれはそういった脊椎（せぼね）の疾患に真剣に向き合っており取り組んでいます。

諸先輩方の築かれた伝統に基づき、現在グループリーダーの田中雅人のもと、中西一夫、杉本佳久が臨床および研究を行っています。2004 年 145 例、2005 年 146 例と年間約 150 件の脊椎手術件数は、国立大学としてはトップクラスです。頸髄症や腰部脊柱管狭窄症といったスタンダードな疾患から、大学病院特有の脊椎脊髄腫瘍、脊柱側彎症（思春期側彎症、神経線維腫症、マルファン症候群）、リウマチ性脊椎症や透析性脊椎症といった比較的頻度の少ない疾患まで多岐に及んでいます。また、低侵襲手術として内視鏡を使った手術や、側彎症などに対してスクリューを安全に刺入するためにナビゲーションシステムを導入しております。

基礎研究面においては、幹細胞を用いた骨誘導・骨再生の研究を岡山大学第一外科と共同で行っています。さらに骨粗鬆症の脊椎に対する独自のスクリューの研究開発にも取り組んでいます。

岡山大学整形外科学教室同様、若いスタッフを中心としたグループであり、ときに和やか、ときに厳しく、フットワーク軽く、臨床と基礎研究の共存を目指し、日々努力しています。



内視鏡下手術



麻痺性側彎症に対する脊椎矯正固定術



ナビゲーション使用した手術